

岐阜市中心市街地活性化基本計画 説明資料

【計画期間 平成30年4月～平成35年3月】 [内閣総理大臣認定] 平成30年3月23日(認定)
平成30年11月29日(変更)、平成31年3月26日(変更)

【前期計画(平成24年10月～平成30年3月)の概要】

○岐阜駅周辺は、市街地再開発事業や駅前広場整備などにより、岐阜大学跡地周辺は、つかさのまち夢プロジェクト事業によりそれぞれにぎわいが創出されたが柳ヶ瀬は歩行者・自転車通行量が減少し、商業地としての再生には至っていない。
○居住人口の社会増減数はプラスとなったが、自然減が増加しており、中心市街地の人口は減少傾向になっているため、まちなか居住の推進が必要である。

【中心市街地の課題等】

柳ヶ瀬を商いの場とするとともに、次世代につながる新しい魅力が集積した場として、岐阜駅周辺、岐阜大学跡地周辺を合わせた中心市街地全体を持続可能なまちにする。

○新たな商業の担い手の創出

柳ヶ瀬では、遊休不動産を活用し、まちの魅力を高めるコンテンツとなる新たな担い手(ハンドメイドなどの高付加価値商品等を扱う店舗やクリエイティブ関連の事業所など)を創出することが急務。

○広域への魅力の発信による、来訪機会の創出

商業の振興を進めるため、地域ブランド、中心市街地の魅力を広域に発信し、新たな来訪者を獲得することが必要。

○都市機能誘導施設等の誘導、維持、利活用

中心市街地の魅力となる商業施設、公共公益施設等の拠点施設を立地誘導し、その適正な維持や利活用によりコンテンツが集積する核とすることが重要。

○まちの活力を支える居住者の確保

まちなかの人口が減少する中、日常の消費の下支え、地域コミュニティの維持に資する居住者を確保するため、更なるまちなか居住への推進が必要。

【目指す中心市街地の都市像】

エリアの空間需要を喚起し、投資が起こる持続可能なまち

【前期計画目標】

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値
にぎわいの創出	歩行者・自転車通行量 (柳ヶ瀬周辺地区)	42,339人 (H23年度)	44,780人 (H29年度)	40,904人 (H28年度) 未達成
	新規出店店舗数 (柳ヶ瀬地区)	8.8店舗 (H19年度 ～H23年度平均)	11店舗 (H24年度～H29年度 年平均)	12.2店舗 (H24年度 ～H28年度年平均) 達成
まちなか居住の推進	居住人口の社会増減数	▲85人 (H19年～H23年)	社会増減をプラスにする (H25年～H29年)	175人 (H25年～H28年) 達成

【新計画目標】

方針	目標	目標指標	基準値	目標値
まちの魅力となるコンテンツの創出	リノベーションを活用した新たな商業担い手の創出	創業数 [遊休不動産等を活用した、まちの魅力となるコンテンツに資する新たな事業者の数] (柳ヶ瀬)	2件 (H24年度～H28年度)	21件 (H30年度～H34年度)
	広域からも来訪しやすくなるような魅力の創出・発信による商業の振興	歩行者・自転車通行量 [休日と平日の平均] (中心市街地の21地点)	52,173人/日 (H28年度)	53,600人/日 (H34年度)
	都市機能誘導施設等の誘導、維持、利活用	都市機能誘導施設等(公共施設)の年間利用者数	2,290,334人/年 (H28年)	2,694,000人/年 (H34年)
まちの活力を支える居住者の確保	民間活用による居住空間の確保	居住人口の人口動態 (中心市街地)	△273人 (H25年～H29年の累計)	100人 (H30年～H34年の累計)
まちの魅力となるコンテンツの創出 + まちの活力を支える居住者の確保		【補充】地価 [中心市街地の商業地7地点の増減率の平均]	△2.4% (H25年度～H29年度の増減率)	プラスにする (H30年度～H34年度の増減率)

〈まちの魅力となるコンテンツの創出〉

リノベーションを活用した新たな商業担い手の創出

- 不動産のリノベーション及び貸し出し事業
- サンデービルディングマーケット
- 空き店舗対策 など

広域からも来訪しやすくなるような魅力の創出・発信による商業の振興

- ぎふ信長楽市推進事業
- 柳ヶ瀬の広報戦略事業
- 不動産のリノベーション及び貸し出し事業(再掲)
- 高島屋南地区整備事業(高島屋南地区公共施設整備事業) など

都市機能誘導施設等の誘導、維持、利活用

- 高島屋南地区整備事業(高島屋南地区第一種市街地再開発事業)
- 高島屋南地区公共施設整備事業(再掲)
- 新庁舎建設事業 など

〈まちの活力を支える居住者の確保〉

民間活用による居住空間の確保

- 高島屋南地区整備事業(高島屋南地区第一種市街地再開発事業)(再掲)
- 岐阜駅東地区第一種市街地再開発事業
- まちなか居住支援事業
- 「ぎふし子育て応援アプリ」運営事業 など

岐阜市中心市街地活性化基本計画の事業概要

〈まちの魅力となるコンテンツの創出〉

リノベーションを活用した新たな商業担い手の創出

①不動産のリノベーション及び貸し出し事業

遊休不動産のリノベーションにより、魅力ある事業者が出店しやすい空間を整備し、出店・創業希望者をリーシングし、コンテンツの創出を図る。

②サンデービルディングマーケット

まちづくり会社等により毎月第3日曜に手作りや手仕事などクラフト関連の定期市を開催し、新たな顧客層の獲得と出店・創業希望者の創出を図る。



広域からも来訪しやすくなるような魅力の創出・発信による商業の振興

③ぎふ信長楽市推進事業

「ぎふ信長」ブランドを広域(東海地域)に発信し、実店舗と様々な集客イベントを連携させた「ぎふ信長楽市」を岐阜市を代表する催しとして発展させ、その担い手となる組織等の連携を強化することで、中心市街地の実店舗の活性化による商業振興を図る。



都市機能誘導施設等の誘導、維持、利活用

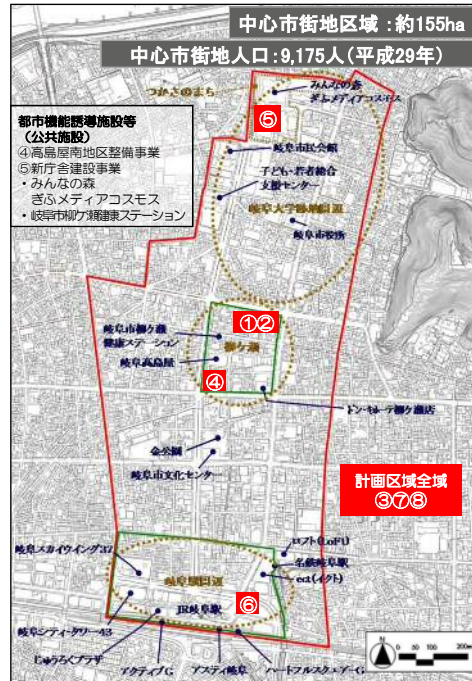
④高島屋南地区整備事業(高島屋南地区第一種市街地再開発事業・高島屋南地区公共施設整備事業)

柳ヶ瀬地区南西にある岐阜高島屋の南側に計画中の市街地再開発事業。中低層には岐阜市による公益施設(子育て支援施設、健康・運動施設)と商業施設が入居予定であり、来街者の増加を図る。



⑤新庁舎建設事業

災害から市民の暮らしを守る「安心の拠点」として、高度な防災拠点機能を備えるとともに、「市民に開かれた庁舎」として、ぎふメディアコスモスと連携し、さらなるにぎわいとまちの活力を創出する。



〈まちの活力を支える居住者の確保〉 民間活用による居住空間の確保

④ 高島屋南地区整備事業(再掲)

(高島屋南地区第一種市街地再開発事業)
柳ヶ瀬地区南西にある岐阜高島屋の南側に計画中の市街地再開発事業。
地上35階、地下1階建て、上層部には約300戸の分譲マンションが供給予定であり、まちなかの居住者の確保を図る。



⑥岐阜駅東地区第一種市街地再開発事業

JR岐阜駅と名鉄岐阜駅の中間の交通利便性の高い市街地再開発事業。
地上24階建て、上層部には約100戸の住宅、中層には福祉施設、低層には商業施設が入居予定であり、まちなかの居住者の確保を図る。

⑦まちなか居住支援事業

まちなかに居住しようとする世帯に対して、住宅取得にかかる費用等を助成し、まちなかでの定住を促進する。

⑧「ぎふし子育て応援アプリ」運営事業

子育て支援に関するイベント情報や子育てに役立つ情報をスマートフォンアプリで配信し、子育て支援体制を充実することでまちなかでの定住を促進する。